

# かながわ異グ連ニュース

広域・地域間異業種交流・産学官連携が活発になっています！！

第11号（8月）では、3件の交流を報告しました（6/10新潟、7/11大分、7/23京都）

今月は山口で開催された中国地域産学官コラボレーションセミナーの報告をします

異グ連事務局長 芝 忠

- 8月19日（火）～20日（水）第3回「中国地域産学官コラボレーションセミナー」が山口県宇部市で開催され、私はパネラーとしての依頼を受け、第4分科会「技術開発・商品開発における“産”“学”“官”との連携方策」にて、神奈川のプロジェクトや補助金の活用について話題提供をさせていただきました。

当セミナーは昨年度から開催されていますが、かなり大々的に事前準備がされているという印象でした。行政や経済団体、第3セクター、大学等が幅広くかつ多数の関係者を総動員しているようで、首都圏と異なり地方独特の“官”の指導性を強く感じられたセミナーでした。

また内容的に傾聴に値する様々な課題が提供され、大変参考になりました。特に「コーディネータの役割が一つの討議課題となり、「現行のコーディネータは役立たず論」から、「産学官連携段階別コーディネータの交代論」さらに「プロデュース機能を持つコーディネータ論」等々面白い討論が行われました。

私たち神奈川でも「コーディネータ論」が検討されており、今後全国的に話題の一つになるのかな？と思いました。私自身は名称や段階論ではなく、総合的なコーディネート能力や、効果のある連携策の提案能力等が今後益々求められていくと考えています。

補助金については、懇談会場でも質問や助言を多々求められ、これも現実的効果と必要性を感じました。

セミナーでは国等が行っている調査結果や研究報告書・資料等も配布され、地域におけるこのような産学官公事業連携の振興に関するイベントは非常に重要であると、改めて感じました。

- 上記セミナーに芝事務局長と共に参加しました。異グ連事務局スタッフ 島津俊之

初日「大学発ベンチャーとは何か」と題して、株式会社トランスジェニック代表取締役社長・井出剛氏の基調講演がありました。同社は熊本大学の山村研一教授のバイオテクノロジー技術を基に大規模に遺伝子破壊マウスを作成し、その情報を販売する会社ですが、同氏は大学発ベンチャーの必要性を説きながらも、現在の日本は大学発ベンチャーが生まれにくい構造にあることを指摘していました。

基調講演後4つの分科会に分かれての討議、2日目はその分科会報告と総括討議等が行われました。芝事務局長は第4分科会（テーマ：技術開発・商品開発における“産”“学”“官”の連携方策）のパネラーとして参加し「神奈川のプロジェクトや公的補助金の活用」についての問題提起を行いました。

私は第3分科会（テーマ：イノベーションを生み出す産学官連携コーディネート活動に向けて）に参加しました。同分科会は終始コーディネータの役割を中心に討議が行われ、スーパーコーディネータやオールマイティのコーディネータはいない、良い情報を提供するコーディネータには自ずと情報が集まる、コーディネータ同士や関連機関とのネットワーク構築が必要である等が共通認識として確認され、大いに刺激を受けました。

また総括討議では大学発ベンチャー創出は出遅れているものの着実に前進しているとの報告もあり、今後各関係機関の力を結集して{産学官連携マスタープラン}の目標達成に向けて取り組むことが確認されました。

会場では山口県異業種グループ連絡協議会の小泉会長、常森副会長をはじめ、愛媛県の田崎氏とも旧交を温めることが出来、さらに多くの方々と交流が出来、有意義な2日間でした。

<次号予告>異業種交流・融合化推進研究会（第7回）への参加。

開催日時：平成15年9月9日～10日 開催場所：大阪府「コスモスクエア国際交流センター」

主催団体：（財）中小企業異業種交流財団

出席者：全国の異業種交流・融合化団体のうち16団体他、総勢37名が参加されました。（神奈川からは南出議長、芝事務局長、渡辺次長、小野川事務局スタッフの4名が参加しました）

内容要旨：「広域交流が新たなチャンスを生み出す」芝、事例発表4件、パネルディスカッション「新たな異業種交流活動のあり方について」等 内容は次号にて報告いたします。

<p><b>満天プロジェクト</b> 愛BC記 「航空・宇宙開発関連部品調達支援プロジェクト」(別称満天プロジェクト)は、これまで参加を希望する企業に対し、宇宙開発事業団による講演会や相談会、筑波宇宙センターの見学会を実施し理解を深めていただきました。そこで、これまでの取り組みの整理と組織化を図るための<b>全体会議を9月18日(木)15時から中小企業センターで開催</b>します。なお、このプロジェクトに関して8月31日(日)朝7時にテレビ東京(12チャンネル)から賢者のマネーの番組で一部取り上げられました。</p>	<p><b>都市(関内)再生プロジェクト</b> 織方BC記 第9回プロジェクト会議が、8月18日(月)に開催され、各分科会の活発な発表・討議が行われました。キーワードは、メディアセンター建設や地下鉄開通(2004年2月)等と連動して、<b>衣</b>(=医+福祉健康)、<b>食</b>(=職)、<b>住</b>(=自由+観光)、<b>知</b>(=クラスター+教育・芸術・歴史)という面からの再生方策を探る、という計画です。<b>次回の全体会議は9月17日(水)です。</b></p>
<p>&lt;補足&gt; 事務局記 <b>第一回宇宙開発利用産学官連携シンポジウム</b> 日時：2003年9月17日 10:00~18:00 場所：赤坂プリンスホテル 入場無料 主催：NASDA(宇宙開発事業団)産学官連携推進室 内容：基調講演「宇宙開発利用の現在と将来」、宇宙活用事例、特別講演のほかパネルディスカッション「宇宙開発利用を経済的に」等々。 パネルディスカッションには、芝異グ連事務局長がパネラーとして参加いたします。</p>	<p><b>異業種交流活性化研究会</b> 小野川BC記 8月25日(月)第7回研究会は、3人の会員から問題・課題の提起を頂き全員で意見交換を行った。「異業種交流の課題・メリットその他」田中BC「コーディネータの心構えについて」八幡BC「異業種交流論、コーディネータ論」島津龍男BC <b>次回は9月16日(火) a.m.10:00センター5F会議室です。多数の参加を期待しています。</b></p>
<p><b>公的補助金プロジェクト</b> 松井BC記 8月26日(火)「補助金プロジェクト」の設立総会が開催された。総会で承認された主な項目は次の通り。 1. 会則(目的、事業内容、役員及び職務、組織、総会、事業年度等)、2. 初年度事業計画(各部門の活動計画その他)、3. 役員 続いて、本会則について必要な「運営規約」案が運営事務局から説明された。「運営規約」は幹事会の議決事項であるが、多くの会員の意見を取り入れることが望ましいとの判断で会員の意見を伺った。出された意見は今後の参考にさせて頂くことになった。 <b>公的補助金の申請支援はすでに受け付けています。個人、企業の皆様！遠慮なく相談をかけてください！</b> <b>連絡：045-633-5192 芝、根岸、志村</b></p>	<p><b>韓国(日韓ビジネス協議会)</b> 高橋BC記 第36回 日韓ビジネス協議会は「かながわのコンソシアム事業2003」の(株)キリンビール横浜工場見学(環境への取り組み)に参加させていただきました。さて<b>9月26日(金)韓国のソウルで開催される「2003国際異業種交流シンポジウム」</b>の参加者が決まりました。南出異グ連議長、河津異グ連副議長、芝事務局長、瀧澤日韓ビジネス協議会長他8名の合計12名になりました。23日に出発して韓国中小企業振興公団、韓国貿易協会、韓国産業団地公団に表敬訪問、工場見学などを予定しています。</p>
<p><b>超強度・透水・保水舗装(新舗装材)プロジェクト</b> 織方BC記 8月26日(火)第3回プロジェクト会議が開催されました。内容は、ミキサ一部会での設計思想について討議、応用分野部会では二次製品(例、新建材)への展開事例発表等、事業化へと一歩前進しました。今後は企業形態の方向づけ、責任体制の担当割付、資金調達手法などの具体化が必要となって来ました。 また<b>10月16日(木)には、産総研での公开发表会</b>への出講を行うとの決定をしました。 <b>次回(第4回)は10月1日(水)開催予定です。</b></p>	<p><b>三浦深層水事業化プロジェクト</b> 八幡BC記 8月9日の講演会、8月26日第6回「三浦海洋深層水を楽しむ会」では、三浦再生のパワーが高まった。とくに主婦会員から三浦はどうしようもない町と諦めていたが、折角の深層水を使った事業を起こさなければという認識を強めた、民の力で三浦を元気にしたいという発言が出るようになった。中島博士から海の起源を学問的に教わり、食塩の作り方を実習した。</p>
<p><b>‘85‘神奈川異業種交流プラザ納涼会</b> 渡辺BC記 KIKでは8月30日(土)に恒例の納涼会を開催した。今年は相模湾を一望できる大磯岩橋会長邸を会場に、岩橋会長と石館会員(神奈川県中小企業家同友会代表幹事)の料理競演やカラオケ自慢で去りゆく夏の名残を惜しみつつ、大いに盛り上がった夏の宵でした。</p>	<p><b>(財)神奈川中小企業センター・ビジネスコーディネータ(通称：瀧澤班)研修会</b> 島津俊之BC記 9月1日、センターの通称「瀧澤班」による研修会(情報交換会)が開催されました。 異グ連の動きとして、芝事務局長から「中国地域産学官コラボレーションシンポジウム」と「中小企業・中小商工業全国交流・研究集会」の参加報告、「航空・宇宙開発関連部品調達支援プロジェクト」の状況、「異グ連交流サロン構想」等の説明がありました。 またメンバーの愛BCが「私のもの作り支援」と題しミニ講演を行い参加者全員で討論を行いました。 なお(財)京都産業21理事・道前正治氏と京都府異業種交流会連絡会議事務局長・異健次氏がオブザーバー参加いただき、異業種交流とコーディネータの役割等について意見交換を行いました。</p>

## 異業種交流専門家育成講座



異業種交流スキルアップ及びプロの育成の一環として、第一線でご活躍のコーディネーター及び経験豊富なベテランの方に毎回登場願ひ、実績・経験に基づいた持論を展開いただきます。

### 最近の異業種交流を含味する

中小企業診断士 島津 龍男

#### 1. 最近の動静について

「かながわ異グ連ニュース」〈第9号(H15年5月末)〉に『この10年間で異業種交流グループは5割増加するなど非常に活性化している。「さらに広域・地域間交流をどう広げるのか」という課題解決に挑戦している。』との芝事務局長の提案(主張)が述べられている。そこでは「広域・地域間交流の必要性について」の説明のあと「今後の広域・地域間交流への新たな提案」として次の8項目が提示されている。

- ①「点から点」をつなぎ合わせて、広域・同時交流へと「面的展開」を行う。
- ②情報拠点の共有化。
- ③情報量の増加。
- ④交流幹旋機能の構築—当分の間、各地域の窓口の確認と担当者(コーディネータ)の設定
- ⑤将来、総合窓口の設置も検討する—(財)中小企業異業種交流財団も検討する。
- ⑥各種依頼案件の公開、掲示板等の研究。
- ⑦セキュリティ、経費等の研究。
- ⑧約1年かけて研究を行う。

そして、以上について10程度の都道府県の支持賛同が得られ「やる気のある全国異業種交流販売ネットワーク(仮称)」構築の基本方針が確認されている。(平成15年5月23日) 「異業種交流」は、中小企業“中興の祖”ともいえるキーワードになっている。主務官庁の(元)通商産業省もすでに、ある時期あれだけ盛んに使っていた「融合化」のコトバからこれに乗り換えて久しい。今や、このキーワードを使わない者はアマノジャクであるともいえる。「異業種交流」が復興してきた経緯には、神奈川県異業種グループ連絡会議の活動と努力が陰に陽に効いていると思う。

また、「異業種交流」からは「ベンチャー企業(事業)」が生まれることになっている。それを支援・育成する公的または私的(民間)制度がある。そこで一言!。「ベンチャー企業」は“優等生”である。“優等生”がそんなに続々と出てくるはずがない。自力でこの域に達することのできる中小企業は一握りである。「後継者育成」もままならない。ならば、「ベンチャーのタネ」を探して「育てる」か、中小企業の「底上げ」をするかである。だれがやるのか。“中小企業の強化・支援に携わっている者”(コーディネータ・アドバイザー・カタライザー)の出番である。

ここで視点を変えると、一方で「異業種交流無能論・無用論」を唱える方々もいる。曰わく「異業種交流の手法はもう古い。時代の流れに合わない。異業種交流から得られるものはない。」などである。本当にそうだろうか。この辺について「含味」という切り口から「最近の異業種交流の実態」を賞味することとした。

#### 2. まずは「産学連携」について

一昔(0.5昔?)前までは「産学官(公)」なるコトバが盛んに使われた。「官(公)」はどこへ消えてしまったのか。「新制度を打ち出すのに邪魔になる」からだと筆者は考える。すなわち、「官(公)」は立场上制度の主管者となるのでマズイからである?。最近の要項では、「官(公)」が主管者であることを明記し、「官(公)」立の「研究・試験機関」の場合は「大学」を“読み替える”こととしている。昔は、「官(公)」立の「研究・試験機関」を「官(公)」と称したのである。なんだか“お上”と“応募者”をはっきり区分しただけに過ぎないと思われる。どなたの発想か、「産学官」といっていた頃も全く同じで何ら変わっていないのである。ただ、要項上から「官(公)」の文字が消えただけである。バカバカしい。だれが事務方を「研究者・開発者・事業者」と思うか。「官(公)」を言わなくなった真意が何なのかこのように、世の中いつの間にか洗脳されていることが、ほかにもあるのだろうか。

まあ、以上のことは枝葉末節なのでともかくとして、「学」は“道草”していいのだろうか。本来、「学」の存在意義は二つに区分され、それぞれの立場を鮮明にしてその使命を全うすべきと考える。その①は前掲ニュースで根岸良吉氏のおっしゃるとおり「真理の探究(科学あるいは知識)」をするところであり、その②としては「技術」に属する領域についての専門的教育をするところ(戦前の「高等専門学校」的)であると理解している。「産学連携」はありがたいが、中小企業側としては大学側の立場を明確に承知していなければならない。一口に「共同研究」とか「指導」・「提携」といっても、大学の使命①と②では、その中味が違う。事業化レベルでは①はまずない。②の場合は対等な「共同研究」もあり得る。巷の声として「大学生の学力低下」が聞こ

えてくる昨今、先生方にこんなヒマがあるのだろうか。中小企業側としても「大学」が支援してくれるなら、その成果はある程度のレベルのものを期待したい。「産」「学」いずれにもプラスをもたらす「連携」をもたらしてもらいたいものである。

### 3. やはり「資金調達」について

企業の体力は、強靱な「体(人・組織・規範・情報インフラ)」と必要かつ十分な「栄養(資金・知識の流通と集積)」が基盤となる。まず「資金助成制度」に頼るのは脆弱な体力であることを吐露したわけで、内外に弱みを見せたことになる。制度に応募する意義(大義名分)と利用対象をはっきりしておいてから応募しよう。

ここで一つ肝心なことに留意しておかなければならない。それは、「資金助成制度」に採択されるかどうかは、その『応募申請内容』の“絶対的評価ないし価値”によって決まるのではない。その制度の主管者の方針・意向および審査関係者の知的水準・経験内容などのポテンシャルに基づく評価・判断によって決まる』のである。ということである。つまり、採択されなくても、落胆することなく、さらに内容の向上に励み、再度あるいは他の制度に挑戦する気概を持つことである。

中小企業経営者は、経理に精通していなければならない。それがだめなら、“腹心”(第三者の場合もある)に精通者を持とう。また、銀行(支店長)と常日頃仲良くなっておこう。なにかとプラスに効いてくるはずである。経営上の心得として、経営者は常に『健全な「資金繰り(キャッシュフロー)」に腐心すべし』ということである。

### 4. 最後に「広域・地域間交流の必要性」について

「異業種交流」には当然「広域・地域間交流」が含まれる。

以上

<異グ連ニュース9号～10号に連載された「産学連携と異業種交流」根岸良吉氏に対する意見が寄せられています、紙面にて紹介し、更なる論議が生まれることを期待します>

#### 根岸先生に 再度 敢えて 挑戦します。！！

異グ連交流アドバイザー 井上 誠一

先生 産官学って なんでしょう ?今の時代の学は 根岸先生時代の学と全く異質なものになっていきます。我々 戦争中経験者は 非常に恵まれた 教育を享けました。いろいろなものを 自分自身で 考えざるを得ないと 一 指導要項や 偏差値が出されてから 皆 考える時間を失いました。そういう年代が 今 教授です。アメリカの大学と 日本の大学の比較論では日本のある国立大学(旧6大帝大)の学長は 言いました。“今の先生=教授は 自分の成績を揚げることばかり考えて全然 学生に教えず 研究という名目で 自分の雑用ばかりやっている と 一 一”同じ質問を 7月初め カリフォルニアで 質問してみました。回答は“日本の大学の先生は 全然 研究する時間がないんだな!!雑用に追われて 一 一”

私の結論は 所詮 大部分の先生は 雑用しかやっていない。教授という肩書きにあぐらを かいて 一 一”根岸先生 そんな大学と 産学官なんて できるんでしょうか ??独立法人化に向けて みなさん ガタガタ やっておられるようですが所詮 大学の先生は 我々 一般の社会常識に ある 一部欠けた特殊人類が 大部分です。できれば 根岸先生の回答 おまちします。

>>>これに対し間髪をいれず、根岸Drから井上様当での回答が寄せられております。

ぜひ掲載したいのですが、6000字を超える大作のため、次回以降に回させていただきます。

**皆様のご意見をお待ちしています！！**

#### <PRです> 神奈川女性起業家クラブ「問題解決の進め方」を学びませんか！！

日時：2003年9月20日(土) 18:30~0:45

場所：フォーラムよこはまセミナールーム2(桜木町 ランドマークタワー13階)

内容：仕事の場、日常生活の場等、様々な場面での問題にいかに対応していくか、その基本を学びます。

講師：NPO法人 横浜エルダーカンパニー会長・千明雅尚氏

参加費：資料代500円のみ

申し込み：かながわ女性起業家クラブ事務局(竹沢) TEL045-774-2711、FAX045-774-2759

#### <編集後記>

異グ連ニュースは会員の皆様、会員外の皆様の「イベントのPR」「新製品・新サービスのPR」「グループのPR」「企業のPR」その他諸々にも、利用いただきたいと存じます。掲載費無料です！！

メール、FAX等でお寄せください。

編集委員：小野川利昌 [onogawa@hkg.odn.ne.jp](mailto:onogawa@hkg.odn.ne.jp) tel/fax 044-954-6254

編集委員：相楽 守 [mamorusagara@mve.biglobe.ne.jp](mailto:mamorusagara@mve.biglobe.ne.jp) tel/fax 03-3701-9712